

# 代表質問 (要旨)

市議会ホームページにて代表質問の録画配信と会議録を公開しています。詳細は18ページをご覧ください。

自由民主党  
鈴鹿市議団

森 喜代造 議員

## 施政方針について

(質問) 子育て対策について。子育てができる保育の整備と子ども発達障がいについて。

(答弁) 子育てと仕事の両立ができる環境の整備や、質の高い保育サービスを総合的に提供することは、子どもたちの健やかな成長を育む上で重点的に取り組む施策である。また、新築される西条保育所は、特別保育として、

病後児保育や一時預かり保育を行う子育て支援拠点施設とし、保育環境の整備を図る。

本市では、保育士などを養成する高等教育機関が市内に1校あることから、学生の就職状況や教育実習の受け入れ状況など、情報交換・情報共有を図り、本市で育った学生が愛着を持って、保育士として働くことに魅力を感じられるようにつなげていきたい。また、子ども発達障がいについては「集団適応健診」に取り組み、早期から支援することで、スムーズな就学へつなぐ体制づくりを進めている。

リベラル鈴鹿

水谷 進 議員

## 施政方針について

(質問) 財政運営から考えた政策の展開の考え方について。

(答弁) 総合計画 2023 では全ての予算事業を実行計画として位置づけ、計画と予算、評価との連動を図っており、市民生活に身近な喫緊の課題、中長期的な観点から今から政策的に取り組むべき課題に対応するため、できる

限り予算を配分し、総合計画の着実な推進に向けて予算編成を行った。今後の財政運営としては、予算編成時には市税などの経常的な財源の確保が不透明である一方、社会保障関係経費などの経常的な財政需要が見込まれることから、財政調整基金からの繰り入れを見込まざるを得ない状況ではあるが、予算の執行に当たってはさまざまな節減努力により歳出を抑制することで、できる限り財政調整基金を取り崩すことなく、ある程度の残高を保有しておくことができるよう努めていく。

緑 風 会

大杉 吉包 議員

## 施政方針について

(質問) 人口減少に伴う将来都市像について問う。①巨大地震、台風や集中豪雨など危機管理能力が求められているが、取り組み状況と今後の計画について。②将来にわたり次世代を担う子ども対策について。③産業政策について。④地域づくり協議会の設立状況について。

(答弁) ①南海トラフ地震発生確率が70%から80%に更新されたことから、鈴鹿市地域防災計画を見直し、改善を図る。②小学校3年生から英語教育を開始し、2020年度からは小学校でプログラミング教育を必修化する。③次世代自動車分野や航空宇宙分野への参入を後押しするほか、稲生高等学校への工業課程の設置に取り組み、ものづくりのまちの担い手の創出を図る。④市が想定する29の協議会に対して、現在25の地域で立ち上げが図られている。

鈴鹿の風

中西 大輔 議員

## 市政運営の基本方針を問う

(質問) 2期目の総括、地域、行政改革を聞く。10年間の人口動態、学力向上の成果、市債と基金の状況など、それぞれどうなっているか。「地域」が多用されているが、それぞれの考えと政策間の連携は。業務に緩みがあると考えるが改善と改革の意志は。市長をトップとする管理職のマネジメント力の強化は。

(答弁) 人口は、ピーク時と比べ約4千人減少した。全国学力・学習状況調査結果の推移を見ると、全国平均との差は縮まってきている。市債残高は約443億円、基金残高は全て合わせて約114億円である。地域づくり推進本部で、政策間の連携と、地域の考えや範囲の整合に取り組み。所属長のマネジメント力を充実させ、人材育成基本方針に基づき、人材育成と組織マネジメントの強化に努める。

その他の質問 ○財政に対する考えを問う  
○子ども関連政策について問う